柑橘

１０月の農作業管理

指導販売課

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

1，日焼け果・大玉果・小玉果の徹底除去

○日焼け果

夏場の高温で日焼け果が多くなっています。日焼け果の混入は、価格の低下につながります。目につき次第、もぎ落としましょう。（果梗枝の基部より除去）

○大玉果

高糖系（大津四号、青島温州）においては、１０月上旬の時点で６５㎜以上の果実は大玉（３Ｌ以上）になります。果梗枝の基部より除去しましょう。

○小玉果

内なり、裾なり、下垂枝を中心にまだまだ多くの小玉果が着果しています。
樹上選果で徹底的にもぎ落としましょう。

2、品質向上・浮皮軽減対策

品質向上・浮皮軽減対策を徹底して高品質果実生産に努めましょう。

対象品種…普通、高糖系（大津四号、青島温州）　　時期…１０月上中旬
薬剤…マイルドカルシウム６００倍、　リンクエース２,０００倍

3、秋肥の施用

秋肥は樹勢の回復、翌春の着花・発芽に備えた貯蔵養分の蓄積のために重要な肥料です。必ず施用しましょう。(基準量は栽培カレンダー37 ページを参照ください)

4、腐敗防止剤の散布

腐敗果の混入は、生産者・産地としての販売に対する取り組み姿勢が疑われます。
果実１個１個の丁寧な取扱を行うと同時に、腐敗防止剤の散布を徹底しましょう。

極早生、早生の腐敗防止剤（トップジンM水和剤）の効果は約２０日程度です。
適期に散布しましょう（使用時期は収穫前前日まで可能です）

5、病害虫防除

時期	品種	散布目的	薬剤名	希釈倍数	使用時期（収穫前）
中旬	早生	腐敗防止剤	トップジンM水和剤	２,０００倍	収穫前日
	中生以降	アカダニ（応急）	スターマイトフロアブル	３,０００倍	7日前まで
下旬	中生	腐敗防止剤	ベフトップジンフロアブル	１,５００倍	7日前まで
	太田ﾎﾟﾝｶﾝ	ミドリヒメヨコバイ	ロディー乳剤	２,０００倍	7日前まで

※ﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲの防除は着色がはじまってから

6、ゆめほっぺ(せとみ)の管理

１）仕上げ摘果の徹底

摘果ノギスを活用し小玉果の除去を徹底しましょう。

２）袋かけ前の管理・袋かけの徹底

袋かけ前に腐敗防止剤の散布　ベフトップジンフロアブル　１，５００倍

鳥害・寒害被害軽減を目的に11月上旬から11月下旬までに袋かけを実施

３）新梢管理

（来年度着花する園＝果実をならす園）

〇摘芯や夏秋梢の処理をしないで放任する

〇樹勢の強い樹は亜主枝単位で誘引する　時期は9月～１０月

（来年度着花しない園＝樹をつくる園）

〇夏枝から発生した秋枝は２本程度に整理する

４）秋肥の施用　施用時期　〇極早生、早生　１０月中旬

〇中生、普通、高糖系、中晩柑　１０月下旬

基準施用量　柑橘有機配合１号　４袋／１０a

３～４年生の幼木及び高接１年目･･･基準の１／２

５～６年生の幼木及び高接２年目･･･基準の３／４

苗木　１年生：柑橘有機配合１号　６０～７０ｇ／樹

２年生：柑橘有機配合１号　７０～９０ｇ／樹

落葉果樹

	病害虫	防除薬剤	土壌改良剤と秋肥の施用
西条柿	ハマキムシ類	スミチオン乳剤　1,000 倍 （１０月中旬）	ヨウリン１袋／１０a 柑橘有機配合１号 ４袋／１０a(１０月下旬)
キウイ	貯蔵病害	ストロビードライフロアブル 2,000 倍　（１０月下旬）	柑橘有機配合１号 ４袋/10a(10 月下旬)

野菜

土が乾くと、苗の生育が悪くなりますので、乾燥した日が続く場合は灌水をおこないましょう

	管理作業	防　除
馬鈴薯	《芽かき》10 ㎝程度になったら太い芽を２本残してほかの芽をかぐ。	《アブラムシ》ダントツ水溶剤 4,000 倍(収穫７日前)
大根	《追肥》月に２回程度ほどこす。１本当り「A801」12ｇ	《アブラムシ》ダントツ水溶剤 4,000 倍(収穫７日前)
白菜	《追肥》結球が始まる前まで、月２回程度ほどこし、土寄せをする。１本当り「A801」12ｇ	《ハスモンヨトウ》 フェニックス顆粒水和剤　2,000 倍
玉葱	《苗床での管理》発芽して５㎝程度になったら密生部分を間引く。更に１週間後に２回目の間引きをし、最終株間を 1.0～1.5 ㎝程度にする。草丈が 20～25 ㎝になるまで育苗する。	《べと病》 リドミルゴルドMZ1,000 倍
エンドウ ソラマメ	《植付前準備》植付１１月上旬 酸性土壌に弱いので播種２週間前に１㎡あたり苦土石灰１５０ｇ施用し、よく耕す。播種１週間前に堆肥３㎏、「A801」１００ｇを施用し畝立てする。	